

長崎さるく博'06と新たな観光のあり方



長崎市長 伊藤 一 長

はじめに

長崎さるく博につきましては、2004年、2005年にプレイベントを開催し、ホップ・ステップの段階を終え、市民参加の輪を大きく広げながら、個性的で魅力的なまち歩きの構造をつくりあげてきました。

そして、いよいよ本年4月1日から日本ではじめてのまち歩き博覧会「長崎さるく博'06」を開催いたします。「さるく」とは、まちをぶらぶら歩くという意味の長崎弁です。本博覧会の大きな特徴は、「市民が企画し、市民が実施し、その成果を市民が享受する」という市民主体の実施方針を当初から貫いている点です。

従来、大型の都市活性化イベントを市民主体で実施することは難しいといわれてきましたが、長崎さるく博では、長崎のまちとそれを支える人達のパワーを基に、準備の段階から、市民と事業者、行政が一体となって果敢に取り組んでまいりました。

このような長崎の挑戦は、新たな都市観光のあり方として、オンリーワンのまちづくりの

手法として、各方面から注目を集めています。

1. 長崎さるく博開催までの経過

長崎市を訪れる観光客数は、1990年に行われた長崎「旅」博覧会の628万人をピークに年々減少し続けており、2004年には19年ぶりに500万人を割り込んで、493万人となりました。

観光客減少の主な要因としては、グラバー園等のいわゆる名所・旧跡を巡回する従来の「団体旅行」、「施設回遊型」から、個人の趣味や好みに応じて学び、体験する「個人旅行」、「体験型」の観光スタイルへの転換が遅れており、観光客のニーズの変化にうまく適応できていないことが挙げられます。

国内観光の低迷が想定される中、観光客の漸減という直面する緊急課題に対応するため、2004年において、市と事業者、各種団体の代表者が討議を重ね、「長崎市観光2006アクションプラン」が策定されました。

このアクションプラン（行動計画）は、「まち活かし・ひと活かし」を基本理念としてお



長崎歴史文化博物館

り、本物の資源の魅力を観光客や市民に伝えていくために、「まち歩きが楽しくなる仕組み・仕掛けづくり」が必要であるとの提言がなされています。

おりしも、長崎県美術館や長崎歴史文化博物館、女神大橋等の魅力溢れる都市拠点施設が次々と完成し、出島復元整備事業第二期工事も完了するなど、まちのハード整備が一段落する時期を、長崎の文化、歴史、自然、人などの良さを知り活かしていくソフト重視の「まちづくり」への転換を実践していく絶好の機会と捉えました。

長崎の新しい魅力が大きくアップする機会に、長崎のまちの楽しみ方を「まち歩き」を通して長崎市民とともに情報発信し、「まち活かし・ひと活かし」を具現化していく。これが長崎さるく博の大きなねらいとなっています。

2. 長崎遊さるく・長崎通さるく・長崎学さるくの概要

「まち歩き」は、市民が直接参加する方法として採用された観光活性化の活動であり、かつ、まちづくりの活動の一つでもあります。

長崎さるく博は、この「まち歩き」を核とした博覧会で、そのコースメニューは、参加者の興味^{ゆう}の程度に応じて、「長崎遊さるく」、「長崎通さるく」、「長崎学^{がく}さるく」の3種類が選択できるようになっています。

まず、参加者がマップを見ながら自由気ままに散策する「長崎遊さるく」は、旧市街地や自然が豊かな野母崎など旧6町の地域に、全42コースを設定し実施します。

次に、長崎名物・さるくガイドが案内する「長崎通さるく」は、グラバー園や出島等の施設内さるくを含む全31コースで実施します。

各コースの参加者定員は15名で、参加料は500円です。一人の参加者にも心をこめてご案内するシステムで、18歳から84歳までの老若男女のガイドさん約470名が本番に備えています。



長崎通さるく ～長崎は今日も異国だった～

主なコースをいくつか紹介しますと、まず、南山手の「長崎は今日も異国だった～南山手洋館、港がみえる坂～」のコースは、今でも居留地時代の洋風住宅や石畳、そこに住んだ人々の感動的なエピソードが残っている長崎随一のエキゾチックなコースです。映画のロケ地として有名な祈念坂・どんどん坂、九州に5つしかない国宝建造物の一つで、「信徒発見」という劇的なニュースで世界に知られた大浦天主堂等を散策します。坂のまち長崎ならではの斜行エレベーター・グラバースカイロード上から見渡す長崎港と山の上まで連なるまち並みも絶景です。



長崎通さるく ～ハイカラさんが往来しよらす～

また、鎖国時代、出島と共に海外に開かれ、来船中国人の生活の場であった唐人屋敷も長崎らしいスポットです。この唐人屋敷を巡るコースが「媽祖様と唐りゃんせ～唐人屋敷の歴史～」で、天后堂等の四堂や往時の堀跡などがあり、身近に長崎と中国とのつながりを感じることができます。迷路のような街路に、唐人街の名残と懐かしい日本の情緒の交錯を見出す興味のないコースです。

さて、長崎開港後、発展を続けた長崎は、



長崎通さるく ～媽祖様と唐りゃんせ～

日本の外交・経済の重要拠点の一つとなり、福沢諭吉や勝海舟、大隈重信等、多くの知名士がこの地を訪れ、蘭学、医学、語学、軍学など様々な学問を学びました。

長崎さるく博では、このような人物に焦点をあてたコースをいくつか設けていますが、なかでも「龍馬が見上げた長崎の空～^{かざがしら}風頭から亀山社中跡、そして寺町へ～」のコースは、日本初のカンパニー・亀山社中跡等を中心に、激動の時代を動かした坂本龍馬等の幕末・維新の志士達の足跡を辿りながら、龍馬像が立つ風頭山から見渡すまちの絶景もお楽しみいただけます。龍馬ファンのみならず、多くの



長崎通さるく ～龍馬が見上げた長崎の空～

皆様にぜひ一度参加していただきたいコースです。

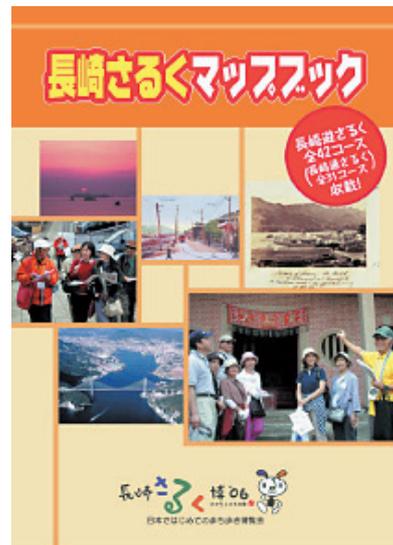
次に、長崎をさらに深く学びたい観光客や市民を対象として、専門家による講座とまち歩きがセットになった「長崎学さるく」を74テーマで111回実施します。「長崎しっぽく料理『遊食会』」などの長崎の食をテーマとしたもののほか、「長崎を訪れた幕末の志士達」、「出島おもしろ物語」、「鎖国と長崎奉行」など、長崎の魅力が満喫できる多種多様なテーマで構成しており、講師の楽しいトークとうんちくに時間が経つのを忘れてしまうほどです。



長崎学さるく ～ 長崎しっぽく料理「遊食会」～

3. 市民参加型の博覧会の仕組み

長崎さるく博の企画の主要な部分は、すべて市民が参画し具体化されました。まち歩きの根幹をなすコースの設定は、まず公募した「市民プロデューサー」と地元の人々が地域の様々な資源を再調査し、長老から昔話を聞いたり、寺社や教会、関連団体などの協力を取りつけ、コース案をみんなで実際に歩いて体験し、その中からお薦めのポイントを選択



長崎さるくマップブック

してストーリーをつくりコースを作成しました。

デザイナーと協力してマップに起し、最終的に42コースを作成するのに長いものでは半年以上の時間をかけ、20名を超える市民プロデューサーと200名を超える地元の方々の知恵と体力と時間が費やされました。

こうして完成した各コースマップは、これまでの長崎の観光マップと比較してはるかに個性的なものになっており、無料で配布しています。現在、42のマップと古写真等を掲載した『長崎さるくマップブック』が本になって市販され、好評を博しています。

次に、国内にはボランティアの観光ガイド組織を持つ都市が多くあり、各々が独自の案内をしています。ガイドの絶対数が少なく、またガイドする場所もいわゆる名所旧跡に限定されていて、いわば観光の付加的なサービス役として捉えられています。

しかし、長崎さるく博の場合は、長崎のまち自体を案内の対象としており、ガイドが「まち歩き観光」の主役として役割を果たし

ていることが大きな特徴といえます。

つまり、観光客が長崎に到着してからガイド役の存在を知り、偶然、巡り会うのではなく、ガイド付きのまち歩き「長崎通さるく」を体験するために長崎に行くという仕組みを定着させていきたいと思えます。お蔭をもちまして、現在、470名を超えるガイドと200名近いサポーターが座学や実地研修を受け、「さるくガイド」、「さるくサポーター」として登録されており、国内屈指の規模になりました。特に「さるくガイド」は、シニアから大学生までと年齢層が幅広いのが特徴で、外国語でのガイドや手話ガイドが可能な方もおられます。



さるくガイド研修（丸山・梅園身代り天満宮）

また、観光客との接点である宿泊施設でのおもてなしや企業独自のさるく関連商品の展開、伝統工芸やコレクションを店舗に展示する「さるく見聞館」の開設、まち歩きの途中での休憩やコースの情報提供を行う「さるく茶屋」の設置など、幅広い企業協力を得て事業を推進しています。

なお、地域情報やマップを入手したり、地元住民とふれあうことができる「さるくほっ

とステーション」を地域の実情に応じ開設し、地域ぐるみでの長崎さるく博への応援をいただいております。



さるく見聞館

4. 会場イベント・記念イベント等の概要

長崎さるく博は、市内一円を会場としていますが、特に、長崎の象徴的な施設であるグラバー園、出島、稲佐山等の既存施設を活用して、長崎の歴史や文化、風情を感じ取れるようなイベントを実施します。

まず、「グラバー園ファンタジア」では、グラバー園を開国時代のテーマパークとして



グラバー園ファンタジア

再現し、レトロファッションの男女によるピクチャーサービスや旧グラバー住宅、旧リンガー住宅での寸劇、アリアなどを行うほか、旧オルト住宅での文明開化料理や夜間開園時の幻想的な「光の森」の演出などを実施します。

また、「史跡出島ワールド」では、カピタン（オランダ商館館長）や通詞、船員、町人などが会場内を行き交い、江戸時代のオランダ商館の一日の生活を再現するほか、出島シアターでの「ながさき出島夢芝居」やカピタン招待の「出島大宴会」、事始を記念した「バドミントン演技」など多彩で楽しいイベントを実施します。



史跡出島ワールド

夏場は、稲佐山での「1000万ドルの夜景 稲佐山サマーナイト」や中島川公園での「中島川夏風情 長崎夜市」、さらに、開幕を飾る「オープニングナイト」のほか、市の花アジサイをテーマにした「長崎あじさいまつり」、「2006年長崎ベイスайдマラソン&ウォーク」など19の記念イベントを用意し、博覧会を盛り上げていきます。

5. 伝統工芸及びながさきの「食」推進への取組み

2002年度から長崎伝習所事業の中で実施した伝統工芸の5つの塾を、2004年度から新たに伝統工芸人材育成事業として立ち上げ、伝統工芸の技術者の育成を推進してきました。2005年11月からは、塾生がボランティアで長崎歴史文化博物館の伝統工芸体験工房を運営し、市民や観光客に長崎の伝統工芸の魅力を伝えようとしています。現川焼きうつつがわによる湯のみ、銀細工アクセサリ、長崎更紗の型絵染め、長崎刺繍、ステンドグラスのランプ作りなど、来館者が楽しく体験できるいろいろなメニューを準備しています。



伝統工芸 ～長崎刺繍～

また、ながさきの「食」につきましては、2004年度から、農水産団体、食関連団体、市民団体、観光業界、報道関係など、55団体の代表メンバーで構成された「ながさきの『食』推進委員会」で、地産地消の推進に向けた様々な事業に取り組んでいます。

特にその中で、長崎さるく博に向けた取組みとして、新鮮な魚料理、鯨料理、南蛮ライ

スカレー、海鮮あんかけチャーハンなどの「新長崎『食』探検メニュー」をさるく博期間中、約100のホテル・旅館・飲食店などで提供することとしています。

さらに、出島ワーフを「食」の発信基地として位置づけ、4月1日から1年間、地元の食材を使った料理などをバイキング形式で提供する地産地消のレストランがオープンし、4月1日、2日の両日には、新鮮な市内産の農水産物が勢ぞろいする「出島ワーフ新鮮市」も開催されます。

その他、市内産の安心・安全な食材や美味しい料理など長崎の「食」をまるごと味わえる企画が盛りだくさんです。



新長崎『食』探検メニュー
～ウチワエビのうまかチャーハン～

6. 長崎さるく博の目指すもの

私は市長の3期目の公約に2006年長崎に大きな花を咲かせようという目標を掲げました。2006年にむけて整備された都市基盤、施設を活用しながら、長崎の魅力を表現する人材の育成にも力を注いでまいりました。積極的な市民の参加により、ガイドをはじめ伝統芸能、工芸、料理などのジャンルで多くの人材が育成され、博覧会での活躍を待っています。

長崎市域は、開港以来の長い歴史と中国や西洋の文化が今も色濃く残るまさに宝の山です。

私は、この地域の宝をそこに生活している市民の皆さんが丹念に掘り起こし、磨きをかけ光らせていく行動、情熱こそが観光都市づくりの原点だと思っています。

先人たちが残してきた長崎というまちの豊富な記憶を継承し、観光客、そして子孫にその記憶を伝えていくことは非常に大事なことです。

この博覧会に市民の皆さんひとり一人がなんらかの形で参加していただき、自らを熱く表現する場となることを心から期待しています。私は市民の皆様の熱意に応え、さらに大きなうねりとするために、長崎さるく博の成功にむけて最大限の努力を傾注してまいります。そして博覧会を契機として「快適に歩けるまちづくり」を共に進めていきたいと思っています。

連絡先：長崎さるく博'06推進委員会事務局
TEL095-832-2036
<http://www.sarukuhaku.com>